

現場管理者のためのデジタル 資産管理

生産性、安全性、そして現場の組織体制を改善します

現場管理者として、工事現場を効率よく、安全で、生産性の高い職場に維持することは毎日の課題ではないでしょうか？

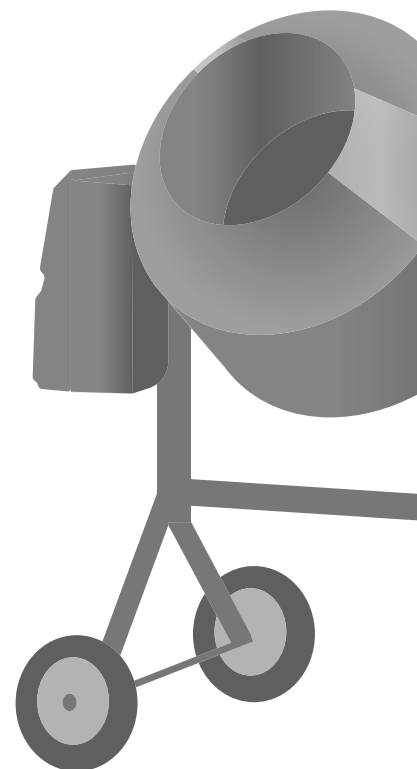
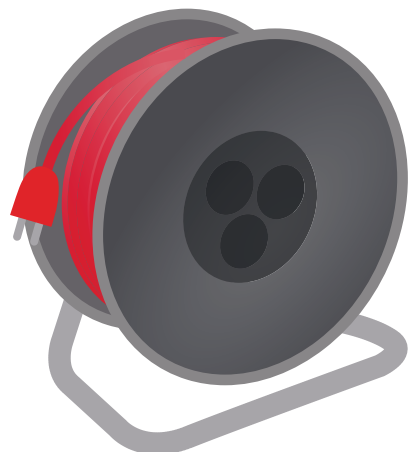
毎日必要な工具や機械の計画を作成し、それぞれの場所に必要な時に準備する必要があります。必要な工具が現場に到着したら、今度は管理し、紛失や損傷がないか常に気を回さなければなりません。

また、常に複雑化する健康・安全に関する法規にを順守する必要もあります。例えば、労働者が機械の操作に関する講習をきちんと受けているか、機械や工具が正しくメンテ、校正されているかなど、さまざまな資産の管理が必要です。

それをどうやったら効率的にできるのでしょうか



どこにいても、今、工具がどこにあるかわかります



資産管理に時間を取られていませんか？

「最初はすべて紙の台帳で管理していたので、資産の追跡や管理は大変でした。完璧にこなすのは不可能と言ってもよいような仕事でしたよ。」

ソニック・レール・サービス社、現場監督、ケヴィン・ヒル

建設業界はハイテク産業になりつつありますが、多くの建設会社におけるプロジェクト管理の方法は時代に遅れていると言わざるを得ません。

建設業は、農業に次いでデジタル化が遅れている分野だと言われていています。多くの企業では、統合されたデジタルシステムを活用して資産を管理する代わりに、紙ベースの管理方法やExcel等の単純なソフトウェアでの作業で管理することが当たり前となっています。

このような方法は時間を無駄にし、管理をする人への無用なプレッシャーにつながります。なぜ、多くの建設関連会社で、複数の現場間での資産の所在を追跡するのに月平均90時間もかけているのでしょうか？また、所有しているのにもかかわらず、所在が特定できず、同じ工具をレンタルすることはないのでしょうか？こういった無駄なプロセスと管理コストを総計すると、年間最大2.6億円ものコストを無駄にしている計算になります。

このような理由でコストや工期遅延が発生すると、現実には資産管理システムの問題であるにもかかわらず、現場管理者の責任となる場合も多いでしょう。

ソフト資産の管理についても同じことが言えます。安全・衛生に関する承認が最新であること、作業者の講習受講履歴が規定を満たしていること、工具や機械の検査が正しく行われ、検査証が有効期限内であること、など確認することは多岐にわたるため、管理者の方を助ける管理システムがあることが理想的です。

紙の台帳で管理しようとするすると必ず記載漏れが発生します。時間が無駄になるだけでなく、現場での安全性の点でも影響が及び、法令違反につながる恐れさえもあります。

デジタル資産管理によって、どのようにこういった問題を回避し、より速く、効率的、かつ安全に作業が進められるのでしょうか？

資産管理をデジタルに

「デジタル資産管理への投資は、間違いなく採算が取れます。工具の紛失がなくなり、工具や機械の所在を簡単に追跡できるというだけで、紙の台帳の管理では得られなかった安心感があります。」

ブレイクマン・鉄鋼工事 プロジェクトマネージャー サムエル・ブレイクマン

コスト、時間の節約、生産性向上の観点から、デジタル資産管理への移行は、あらゆる建設関連の会社で賢明な選択となるでしょう。

デジタル資産管理ソフトウェアの操作方法は日々改善されており、導入費用も比較的安価となりました。特筆すべきは、クラウドベースのプラットフォームを活用すれば、今まで以上に安全にデータを管理できるという点です。適切なソフトウェアの選択と運用により、ハード資産の支出を低減するだけでなく、従業員の時間をより利益を産む仕事に使うことができます。また、工期遅延はなくなり、法令違反の危険性をも排除します。

つまり、現場管理者の仕事はよりシンプルで、効率的になり、コスト効率を改善するうえ、以前の苦痛が軽減されるのです。

デジタル資産管理のメリット

デジタル資産管理の実施

米国の建築関連業者がデジタル資産管理を導入した際、現場への足場の割り当てを適正化することによって、毎年35ドルのコスト削減を実現した例があります。デジタル資産管理システムによって、足場の所在を追跡し、現場に割り当て、管理することが可能となりました。

紙の台帳管理からデジタル資産管理に移行すると、携帯、スマートフォン、あるいはWebブラウザなどあらゆる端末で、クラウドベースのデジタル資産管理システムにアクセスできるようになります。

すべての工具や機械は、頑丈なバーコードで追跡することができ、いつでも、だれが責任者で今どこにあるのか確認することが可能です。また、各資産は各部門のコストセンターに割り当てられるため、どの部門で故障や紛失が起こりやすいかを確認することも可能になります。

シナリオ - 工具を現場に割り当てる

例えば、明日の朝、回転式レーザー2台、コンクリートポンプ1台、アングルグラインダー6台、ドリル3台を現場で使えることを確認する必要があります。

各工具には頑丈なバーコードが貼られており、資産管理システムに登録されています。システムにログインし、それぞれの工具がどこにあるか、それが現場であろうと倉庫であろうと、正確に確認することができます。また、いま誰が使っていて、明日使えるかどうかを確認することもできます。

翌日の現場に必要な工具をその日の責任者に割り当て、彼が翌日現場で受け取ることができるように設定します。

これには大きなメリットがあります。

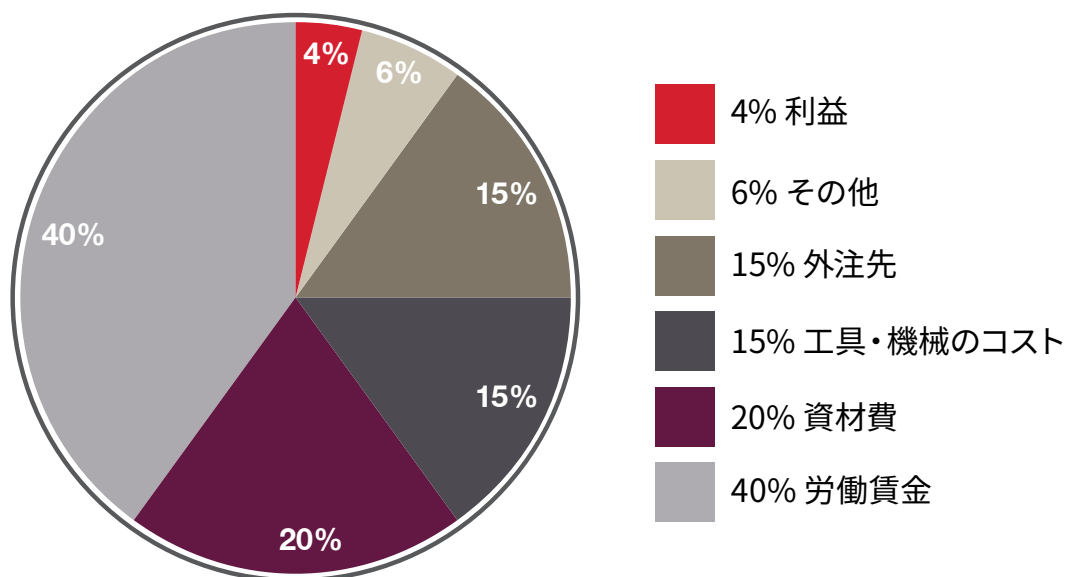
- **時間の節約:** 紙の台帳を確認して、電話をかけて工具の所在を確認する必要がなくなります。翌日工具が現場に確実に届くので、作業の遅延を起こしたり、工具を探して、時間を無駄にすることはなくなります。工具の現場への割り当てもとても簡単で、時間がかかりません。
- **コストの削減:** 必要な工具を使えることが確認できるので、重複して購入したり、レンタルすることがなくなります。これにより、余分な費用をかけることもなくなるでしょう。このシステムは、消耗品（例えば、ボルト、ピン、石膏ボードなど）の在庫数も確認できるため、不必要な追加発注がなくなります。つまり、適正なコストに抑えられるのです。
- **紛失または盗難の減少:** 各工具の所在と責任者が明確に追跡されるため、作業者の道具管理も細やかになります。これにより、紛失または盗難が減り、無駄なコストを削減します。
- **完全な可視化と報告機能:** システムデータを使用して、異なる現場を比較することができます。例えば、ある現場が同じような現場と比較して消耗品を多く消費していたり、工具をより紛失しているなどの事実をシステムが可視化することができます。現実のデータをベースに問題を洗い出し、各現場に合わせた目標設定をすることも可能になります。

デジタル資産管理システムを導入すると、時間とコストの大幅な削減が可能です。建設関連のいくつかの会社のご協力を得て、下記のようなコスト削減の例を算出しました。

- A社は、全現場の資産の追跡と割り当てに1日に15時間（年間3,600時間）、コストにして約2000万円を費やしていました。デジタル資産管理を導入したことにより、この時間を半分に減らすことができ、1,800時間、コストにして約1,000万円の削減を実現しました。
- B社では、従業員が在庫を「キープする」ことができ、在庫数に透明性がなかったため、毎月平均約7万円の不要な購入を約10回行っていました。デジタル資産管理の導入により、この75%を削減することができ、年間約840万円かかっていた消耗品コストを約200万円まで減らすことができました。

建設関連の会社で発生する主な4つのコストは次の通りです

1. 労働賃金
2. 資材費
3. 工具・機械費
4. 外注先への支払い



上記の例が示すように、30人の従業員を持つ会社が、適切な資産管理方法に替えると、年間約1,300万円から3,300万円ものコストの削減が可能です。

デジタル資産管理システムは、現場や作業員へ簡単に工具を割り当てられる上、資産管理にかかる膨大な時間の節約となります。

どのように時間を節約できるか、見てみましょう。

資産と文書管理

ソフト資産データはシステムに取り込むのが理想的です。内容は、以下のような情報が考えられます。

- 健康・安全関連の証明書
- 従業員の講習受講履歴／資格認定書
- 自動車税の支払期日
- 各種団体の会員費詳細
- 工具／レンタル品の返却日
- 各現場へのコスト配分

このようなソフト資産においては、認定資格の更新や、更新のための講習会受講など、リマインダーを設定することができます。該当する従業員は、期日前に自動的にリマインダーを受信するので、業務上の重要事項の管理に漏れが生じることがなくなります。

その結果、法令に関連するものなど、更新に関する状況管理に膨大な時間を費やす必要がなくなります。各責任者は必要な期限までに処理を行えるよう、リマインダーを受け取ります。安全衛生の検査など、重要な問題への対応が容易になり、罰金につながるような違反の可能性がなくなります。

ソフト資産のデジタル管理によって、現実にどれだけの節約ができるかをヒルティは目にしてきました。

- 講習受講証明書、労働許可証、安全データシートの管理に毎月20時間を費やしていた会社が、デジタル資産管理の導入により、この時間を33%削減することができました。
- 期限管理に毎月4時間を費やしていた会社が、デジタル資産管理ソフトウェアから自動発信されるリマインダーにより、この時間を90%削減することができました。

デジタル資産管理の導入メリットの事例

フランスのある建設現場で盗難事件が起こりました。その現場を担当している会社のデジタル資産管理システムにより、30分以内に盗難の発生に気づくことができました。システムにより何が盗まれたか明確に分かったので、その日の午後には保険請求を起し、代替えの工具を発注することができたのです。翌日には新しい工具が現場に届きましたので、つまり、システムによって生産性の低下を防ぐことができたと言えるでしょう。

デジタル資産管理システムの評価

優れたデジタル資産管理システムを導入すると、工具、車両、機械、消耗品などの資産を一元管理できるようになります。建設業界で使用されるシステムを評価する際、通常以下のような機能を確認する必要があります。

- **頑丈なハードウェアによる資産の識別**：あらゆる種類の資産に対応可能なハードウェアが必要となります。このハードウェアを従業員が自分のスマートフォンでスキャンすること、そして追跡することができるのが良いでしょう。厳しい気象条件にも耐えうる強固なバーコード、NFCまたはBluetoothタグを使用するのが理想的です。
- **ソフトウェアの柔軟性**：使用するソフトウェアは常に持ち運びでき、現場でも移動中でも使用できるのが理想的です。クラウドプラットフォームを利用すると、各ユーザーがリアルタイムで最新情報を参照できます。またiOSやAndroidスマートフォンなどのデバイスからアクセスできるため、独自の端末を準備する必要がなく、互換性のあるハードウェアの入手が容易となります。人の手による作業は最小限に抑えられているべきです。また定期的な更新、強力なデータセキュリティが提供され、データ保護上の規制に準拠したソフトウェアを選択することが賢明な選択肢でしょう。
- **サービス内容**：あらゆるシステムは、専門的なサポートを受けて、自社の在庫および作業手順に適応するように調整されるものが適切です。これには、既存のデータの移行、資産へのバーコードの貼り付け、現場でのトレーニングなどの支援が含まれ、スムーズなシステムへの移行ができるサービスが伴っていることが理想的です。
- **信頼できるパートナー**：デジタル資産管理のソフトウェアを提供する会社はさまざま、建設業界のあらゆる会社に対応が可能なソフトウェアが取り揃えられています。あなたの会社に適切なソリューションを選択する際、ソフトウェアを継続的に改善し、専門家のアドバイスとサポートをいつでも必要な時に提供するパートナーを探すことが賢明です。長期的な投資にかかわる選択ですので、選んだ業者が今後も長くビジネスを継続する会社であることも重要です。万が一、選択したソフトウェア会社が倒産した場合、日々急速に時代遅れになっていく高価なソリューションの保全・管理を自らの手で行う事態になってしまうのです。

デジタル資産管理がお客様の現場の生産性向上をお手伝いします。詳細は[こちら](#)をご参照ください。



ヒルティグループは、革新的なソリューションと優れた付加価値を提供する技術的に優れた製品、システム、ソフトウェア、サービスを世界中の建設関連企業に提供しています。ヒルティグループでは、120カ国以上に25,000人以上のチームメンバーがお客様を熱心に支え、共により良い未来を築くためのサポートを提供しています。ヒルティは2016年に46億スイスフランの年間売上を達成しました。ヒルティ*の企業文化は、誠実、チームワーク、コミットメント、そして変化を受け入れる勇気を基本としています。ヒルティグループの本社はリヒテンシュタインのシャーンにあります。